

楽読
(ラクヨミ)Vol.
1,460Raku
Yomi2019年は、世界的な株式指数への
中国A株組入れが進む見込み

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

18年の中国本土市場を取り巻く環境は、政府のデレバレッジ(債務削減)推進や米中貿易摩擦、人民元の下落など、厳しい状況が続きました。しかし一方で、MSCIが算出・公表する「MSCI新興国株式指数」に初めて中国A株が組入れられるなど、近年の市場開放や規制緩和が評価され始めた年でもありました。中国本土市場は個人投資家の割合が多く、市場心理の影響を受けやすいという特徴があります。ただし、ストックコネク(株式の相互取引)を経由した海外投資家の資金フローは概ね堅調に推移しており、特に同株式指数への組入れを前に、1日当たりの投資上限額がそれまでの4倍に引き上げられた18年5月からは、資金流入の規模が拡大傾向となりました。

今年はさらに、海外からの注目が高まるとみられます。MSCI新興国株式指数へのA株の組入れは、18年9月時点で0.7%と限定的なものであり、対象も大型株に限定されているものの、MSCIは早ければ19年5月から、A株の組入れを拡大することを検討しています。同社は今年2月末までに最終的な決定を行なう予定ですが、これまでに発表された見通しによると、20年5月にはA株の組入比率が3.4%程度に拡大する見込みです。

また、FTSEラッセルも、今年6月から同社株式指数にA株を組入れることを決定しました。第1フェーズの組入れが完了すれば、「FTSE新興国株式指数」におけるA株の比率は5.5%程度となる見込みです。そのほか、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスも、同社グローバル株式指数へのA株組入れを今年9月に開始するとしています。

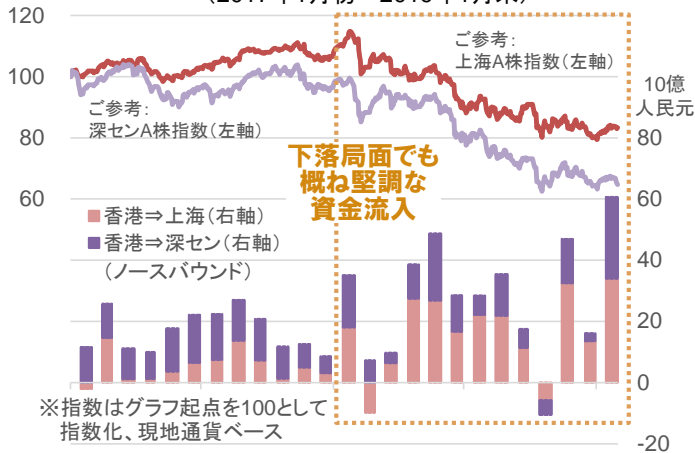
これらの指数は、世界の多くの機関投資家がベンチマークとして使用していることから、インデックス運用などの資金流入が見込まれるほか、アクティブ運用を行なう投資家の関心も一層高まるとみられます。中国証券監督管理委員会は、19年中に中国本土市場に流入する海外資金は、昨年(18年)の2倍に相当する、6,000億元(約890億米ドル)に達する可能性があるとしており、こうした資金が市場の下支えになると見込まれます。

なお、A株が世界的な株式指数に採用されることで、市場参加者がより多様化、国際化すれば、市場の変動性が低下し、株価が経済動向や企業業績を反映しやすくなるなどの効果が考えられます。そのため、当局は引き続き市場開放を進めるとみられ、こうした好循環が継続することが期待されます。

中国本土市場への資金純流出入額

(ストックコネクを利用した中国本土・香港間の月次資金フロー)

(2017年1月初～2019年1月末)

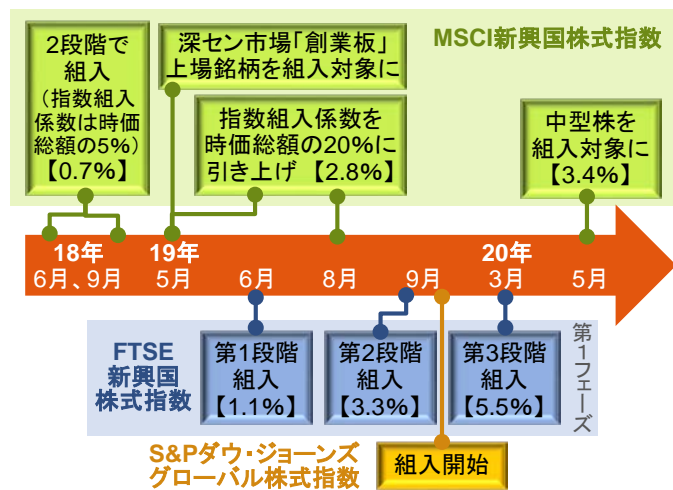


17年1月 17年7月 18年1月 18年7月 19年1月

(各社の発表内容や、信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予定であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

各指数へのA株組入れロードマップ



※【】内は記載時点の各指数におけるA株組入比率(予定含む)

※MSCIは18年9月時点の見直し

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。